

福電協会報

第89号



一般社団法人 福岡電業協会
2019.1

福電協会報

第89号

◀もくじ▶

会長挨拶	西村 松次	1
祝 辞 国土交通省九州地方整備局 局長 伊勢田 敏	2	
福岡県知事 小川 洋	3	
福岡市長 高島宗一郎	4	
平成31年新年賀詞交歓会	5	
施設紹介 福岡高等・地方・家庭・簡易裁判所 庁舎の紹介	6	
技術レポート ケーブルラック耐震支持の さらなる強化	8	
太陽電池のEL 測定用ドローンの開発	12	
シリーズ職場訪問 株式会社秀電社	17	
シリーズ郷土 福智町	18	
写真コンクール(第38回)	20	
横顔紹介と隨筆	24	
事業報告 平成30年度「技術見学会」実施	32	
技術講習会の実施	33	
平成30年度「福岡県総合防災訓練」参加	34	
「実技講習会」を開催	35	
防衛省九州防衛局定例懇親会開催	36	
国交省・九地整との定例懇談会開催	37	
高校生「施工現場見学会」を開催	38	
第26回福電協ボウリング大会	39	
福電協ゴルフ大会(88・89回)	40	
委員会だより 総務委員会	42	
広報委員会	42	
技術委員会	43	
事業委員会	43	
協会組織	44	
会員名簿	45	
役員名簿	48	

表紙のことば

九州大学六本松キャンパスの跡地に全国初の「福岡高等・地方・家庭・簡易裁判所庁舎」として生まれた。庁舎として公平で中立なイメージのデザインになっている。また裁判所に求められるプライバシー・セキュリティの確保にも配慮されている。

電気業界の最大の課題は 「人材の確保・育成」

一般社団法人 福岡電業協会

会長 西 村 次



新年、明けましておめでとうございます。
皆様方におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

福電業協会は、日本電設工業協会と歩調を合わせ、電気工事業界の健全な進歩発展と、社会公共の福祉増進に寄与してまいります。

世界経済は予断できない状況でありますが、日本の経済は比較的顕著に推移し、建設業界全体はもちろん、我々電気業界も忙しい日々が続いています。

2025年大阪万博開催の決定も追い風に、しばらくはこの状況は継続すると思われます。

又、昨年は異常な暑さに加え、今年の漢字にもなった「災」であらわされる自然災害の非常に多い年でした。

6月の大坂北部地震、7月の西日本集中豪雨、8月の台風21号災害、9月の北海道胆振東部地震。

各災害でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。

この様な災害に今後も見舞われる危険性があります。

我々の電気工事業界として、ライフラインである電気を改めて見つめ直し、電気設備の重要性を再認識し災害に備えるのも我々の役割と感じています。

電気業界を初め、建設業界にとっての最大の課題は「人材の確保・育成」であります。

若者の確保とその育成に皆様もご苦労されていると感じております。

担い手の確保には働きやすく魅力ある職場環境が不可欠であり、そのためにも「働き方改革」を強力に取り組む必要があります。

福電協も電設協と同様『働き方改革に向けた基本方針』を推進し

- ①長時間労働のは正等
- ②担い手の確保・育成と待遇改善への取組
- ③生産性の向上
- ④適正な受注活動及び取引の徹底
- ⑤関係機関・関係団体等との連携

を図ってまいります。

建設業における働き方改革には、行政・施主を含めた社会全体の理解が必要ですが、今が千載一遇のチャンスであると思います。

まず、電気業界で働く人々の待遇改善が絶対条件であります。福電協としても毎年開催している工業高校生の現場見学会・意見交換会をはじめ、九地整建政部主催の学校キャラバンへの参加など、今年も具体的な活動を行い、若者へのPRを図ってまいります。皆様方の今後のご協力をよろしくお願い致します。

福電協は昭和45年8月設立以来、来年の2020年には50周年を向かえます。

50周年の記念行事もこれから計画してまいります。

今年も「夢と生きがいのある電設業界」を目指し、新アクションプランの重点目標を着実に実現するため、正会員・賛助会員のみならず、関係する皆様と連携し、電設業界の成長・発展になるよう努力していく所存であります。

最後に今年が皆様方にとて最良の年となり、お互いに実り多き一年になりますよう祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

年　頭　挨　拶

国土交通省九州地方整備局

局長　伊勢田　敏



年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人福岡電業協会の皆様には、平素より、国土交通行政の推進にご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

九州は日本の西端に位置し、首都東京から西へ約900km離れていますが、中国の上海からも1000km圏内にあり、東アジアの中心に位置しているともいえます。実際、アジアとの玄関口である福岡空港の国内・国際線の需要は、近年、増大し続けており、需要増に対応すべく、2024年度には新たな滑走路を供用開始できるよう整備を推進しています。東アジアからのインバウンドを中心に、日本全体に来航するクルーズ船の約4割が九州に寄港（2017年）しています。継続的に増大する寄港需要および船舶大型化に対応するため、国際旅客船拠点形成港湾の指定を受けた佐世保港、八代港および鹿児島港では、新たなクルーズ専用岸壁の整備を進めています。八代港は、九州新幹線の新八代駅や九州自動車道の八代ICまでの距離が近く、クルーズ船で訪れた観光客が九州各地の観光地へ日帰り旅行をすることが可能です。この地理的メリットを活かして、九州全体の観光振興に寄与するよう、船舶や鉄道、自動車といった交通モードの接続を強化するモダルコネクトを推進しています。

一方、九州は豪雨、地震、火山による自然災害が頻発している地域でもあります。2016年熊本地震、2017年九州北部豪雨、昨年の西日本豪雨による各地での甚大な被害を通じて、改めて防災・減災への取り組みの重要性を認識したところです。このよ

うな大規模災害時、防災拠点となる官庁施設には、電気等のインフラ途絶時にも庁舎機能を確保し、円滑な災害応急対策活動を行うことが求められます。これに向けて、営繕事業では「防災・減災の推進」を重点的に取り組んでいます。熊本地震の際には、熊本合同庁舎が防災拠点として機能したことにより、熊本市からの要請を受け、地域住民の避難所として活用され、地域防災に大きく貢献しました。また、昨年は、地域の防災拠点となる唐津港湾合同庁舎および小倉合同庁舎を整備しました。

また、社会環境の変化を踏まえ、建設業の生産性向上についても取り組んでおり、BIM/CIMの活用をはじめとするi-Constructionの取り組みを順次拡大しています。さらに、担い手確保の観点から、週休二日を前提とした工期の設定や、発注・施工時期の平準化を通して、働き方改革を推進しています。改正品確法の精神を踏まえ、災害時には地域の守り手としての大きな役割を果たしている建設産業が、新3K（給与が良い、休日が取れる、希望が持てる）の業界となるよう、九州各県、市町村とも連携して取り組みを進めていきます。

今後も電気工事業を含む建設産業の皆様とともに、九州をより活力ある、安全で安心な地域とするべく社会資本整備、国土強靭化に取り組んで参ります。

本年が皆様にとりまして、実り多い年になることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感

福岡県知事

小川 洋



新年あけましておめでとうございます。

一般社団法人福岡電業協会の皆さんにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃から電気設備工事の安全施工に向け、技術力や保安意識の向上にご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

福岡県は、一昨年、昨年と2年連続で豪雨災害に見舞われました。県では、それぞれの被災地の復旧・復興に、全力で取り組んできました。

経済に目を転じると、わが国の経済が緩やかに回復している中にあって、本県は、それよりもさらに先を進み、景気は緩やかに拡大しています。雇用も、有効求人倍率は1.58倍と最高水準で推移し、就業者数もこの1年間で47,000人増えました。

今年は、まず何より、被災地の復旧・復興を加速させます。そして、各地域で雇用を増やし、元気な福岡県をより一層元気にし、一方で、いろいろな問題を抱えておられる方々に寄り添う、温かみのある行政に力を入れていきます。

まず、地域経済の活性化と魅力ある雇用の創出です。

本県の雇用の約8割を担い、県経済の発展と活力の原動力である中小企業を振興するため、それぞれの企業の成長段階と事業環境に応じたきめ細かな支援を行うとともに、事業承継にしっかり取り組んでまいります。

また、引き続き、自動車、水素エネルギー、バイオ、ロボット、IoTなど先端成長産業を育成します。

昨年、国から全国7つの特区の中で最も高く評価された「グリーンアジア国際戦略総合特区」は、すでに設備投資額2,000億円を突破し、約1,500人の新たな雇用が生まれています。引き続き、一つでも多くの事業化を実現します。

これから、本県では、アジア初のラグビーワールドカップをはじめ、国際イベントが目白押しです。

これを契機として、国内外から多くの観光客を誘致し、県内各地、そして九州への周遊を図るための受入環境の整備を進め、本県の観光における競争力を高めてまいります。

そして、安全・安心、災害に強い福岡県づくりです。

まずは、県内被災地の一日も早い復旧・復興に全力を挙げるとともに、県外の被災地に対してもできる限り支援してまいります。そして、災害の経験と教訓を生かした防災対策の充実強化、近年頻発する自然災害を踏まえた緊急輸送道路、河川、砂防施設の整備など、「災害に強い福岡県」をつくっていきます。

電気設備工事に携わる皆さんにおかれましては、時代が求める新しい知識と技能の習得に努められ、地域の皆さんへ安全・安心を提供いただきますようよろしくお願ひいたします。

新年が皆さんにとって、素晴らしい一年となりますよう心からお祈りいたします。

祝　辞

年　頭　挨　拶

福岡市長

高　島　宗一郎



新年あけましておめでとうございます。

一般社団法人福岡電業協会の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年、市民の皆様にご信任いただき、引き続き、福岡市政の舵取りを担わせていただくことになりました。新しい年を迎える改めて、皆様のご期待に応えていく決意を新たにしております。

今、福岡市は成長の真っ只中にいます。第3次産業が9割を占める福岡市は、人を呼び込むことで経済が活性化することから、観光振興や国際会議の誘致に力を入れてきました。その結果、クルーズ船の寄港回数が3年連続で日本一となるなど観光客が増加し、年間2,000万人以上の方が福岡市を訪れるようになりました。企業立地や創業も進み、都市経済の成長により政令指定都市で唯一、市税収入が5年連続過去最高を更新し続けています。

この成長の果実により、ご出席の会員の皆様のご協力で、すべての小中学校にエアコンの設置、保育所整備など生活の質を向上させるさまざまな取り組みを行うことができました。

昨年、市内のすべての校区をまわり、市民の皆様と直接お話しした際には、子育て世帯や高齢者、障がいのある方などさまざまな方から貴重なご意見を伺うことができました。経済政策で都市の成長を加速させ、それにより確保した財源で、いただいた声を一つでも多く実現し、すべての市民の皆様にとっ

て住みやすいと言つていただけるようなまちにしていきたいと考えています。

そのためには、回り始めた「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環を確固たるものにすること、今ある成長の勢いを止めないことが大切です。福岡市は現在、成長に伴う需要の拡大により、オフィスやホテル、ホールや展示場が不足していく、新たな企業の進出や国際会議の開催に十分に対応できず経済的な機会損失が発生しています。この機会損失を減らすため、「天神ビッグバン」や「ウォーターフロントネクスト」を進め、都市の供給力不足を解消していきます。また、福岡市の成長を牽引するような企業を創出するため、国家戦略特区を活用しながら、スタートアップ支援に引き続き力を入れていきます。福岡市は今年で市制130周年を迎えますが、この節目の年に、ビッグイベントが2つも開催されます。世界最高峰の国際会議「G20福岡財務大臣・中央銀行総裁会議」と、アジア初開催となる「ラグビーワールドカップ」です。世界に「福岡」を発信し、福岡市がさらに成長していくチャンスだと考えています。市民や企業の皆様と一丸となり、オール福岡で大成功を収めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

最後に、ご出席の皆様の今年一年のご健勝とご活躍を心より祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

平成31年 新年賀詞交歓会

(一社)福岡電業協会として恒例の「新年賀詞交歓会」が平成31年1月8日(火曜日)西鉄グランドホテルにおいて開催された。

当日は来賓として、国土交通省九州地方整備局、経済産業省九州産業保安監督部、独立行政法人都市再生機構九州支社、福岡県、福岡市、福岡市議会等から多数出席を頂き、正会員及び賛助会員もあわせて220名の参加を得ての開催であった。

主催者を代表して、西村会長より昨年は災害の多い年であり、我々電気業界もライフラインである電気設備の重要性を再認識し、災害に備えるのも役割の一つである。業界の最大の課題は人材の確保・育成であり、働き方改革に取組み、働きやすく魅力ある職場環境づくりが不可欠で、まず電気業界で働く人々の待遇改善が絶対条件である。今年も現場見学会や意見交換会など、具体的行動を行い若者へのPRを図り夢と生きがいのある電気業界を目指すとした挨拶があった。

来賓を代表して、九州地方整備局伊勢田局長の代理として佐藤営繕部長が、建設業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、担い手の確保・育成、多発する災害への迅速な対応、生産性向上への的確な対応など多くの課題に面している。建築分野は未来を作り、モノつくりを体感できる夢のある分野と考え、働き方改革を進める必要がある。営繕事業では適正な工期設定や週休2日の推進などに取り組み、建設業界の皆様にも役に立ち一層の信頼を得られるよう努めてまいりますとの挨拶があった。

続いて福岡県小川知事の代理として商工部工業保安課 野崎課長技術補佐が、本日お集まりの皆様

は、日頃から電気工事の安全且つ適切な施工を通じ、県民の皆様の豊かなくらしと産業の発展に尽力いただき感謝します。県民の安全・安心への関心が高まり、生活と産業の基盤を支える電気設備の果たす役割は重要且つ広範囲になり今後も高度化、多様化する社会ニーズに的確な対応が求められる。皆様には新しい知識と技能の習得に努められ地域の皆様に安全・安心を提供いただくようにとの祝辞であった。

最後に、福岡市高島市長の代理として、財政局山口部長より、福岡市は成長の真っ只中であり、この成長の果実により、本日ご出席の皆様の協力で、全ての小中学校にエアコンの設置や保育所整備など生活の質の向上に取組むことができた。今年市制130周年を向かえ2つのビックイベントの開催もあり、市民や企業の皆様と一丸となり、オール福岡で大成功を収めたく皆様の協力をよろしくお願いしますとのお願いがあった。

引き続き役所ごとに来賓紹介が行われ、経済産業省九州産業保安監督部新井部長の挨拶と乾杯のご発声で祝宴となった。

会員各位がご来賓の皆様と新年の挨拶を行い会員相互の懇親を深め、和気あいあいとした雰囲気の中、新春の楽しいひと時を過ごした。

最後に、福岡電業協会島田副会長が皆様への御礼と、業界として色々問題を抱えているが、女性や若年者に魅力ある産業であることを認識していただけるように様に我々は努力しなければならないと思っていると挨拶し、万歳三唱を声高らかに執り行い盛会に終えた。

